

とくしま医療センター東病院

【施設概要】

1945年 日本医療団板西療養所として創設

1947年 国立板西療養所として発足

1979年 国立療養所東徳島病院に改称

2004年 独立行政法人国立病院機構東徳島病院

2010年 独立行政法人国立病院機構東徳島医療センター

2024年 独立行政法人国立病院機構とくしま医療センター東病院へ名称変更

同年4月より徳島県内の国立病院機構2病院(独立行政法人国立病院機構とくしま医療センター東病院と独立行政法人国立病院機構とくしま医療センター西病院)を一体の組織として運営するにあたり、神経筋疾患・難病、医療的ケア児者・重症心身障がい児者、結核・呼吸器感染症などのセーフティーネット医療を、とくしま医療センターとして包括的に提供する体制づくりをしております。また心の通った適正な医療や2次救急、包括ケア病床も含めた地域医療に取り組んでおります。



【放射線科について】

当院の放射線科は、放射線科医師5名(常勤2名、非常勤3名)、診療放射線技師4名、事務員2名が在籍しております。装置は一般撮影装置、ポータブル装置が各2台。MRI装置、CT装置、X線TV装置、乳房撮影装置、血管撮影装置、外科用透視撮影装置を各1台ずつ保有しております。地域の開業医の方たちとも連携し、様々な疾患に対応した放射線検査を迅速かつ正確に行えるよう努めております。

【施設周辺環境】

当院の近くに国が定めた、県内ではたったひとつの防災道の駅「いたの」があります。次世代エネルギーを備えた未来志向型道の駅として、また防災拠点となる道の駅として整備したものです。道の駅としての機能だけでなく、移動式水素ステーションや、大規模災害に備

えへりポート、耐震性貯水槽、避難所兼備蓄倉庫、ホテルも備えています。来たる災害に備え着々と準備は進んでおります。また板野町で栽培されている春夏にんじんが有名で、「柔らかくて、甘い」という特徴があり、春夏にんじんの出荷量は日本一です。この道の駅では、にんじん詰め放題やその他にも特産品を使用した数々の商品もありますので、にんじん好きな方は時期を確認した上でお立ち寄り下さい。

